

はれ、爪甲大の紅斑や Urticaria を伴ひ、發疹も時に大きく Milben-gang や家族間傳染を證明しない。

療法 1) 硫黄劑を特効藥とする。10% Schwefelvaselin, Teer-pasta 土肥氏改良カボシー氏軟膏等。

土肥氏改良カボシー氏軟膏。

Rp.	ベタナフトール	5.0—10.0
	硫黄華	30.0
	加里石鹼	50.0
	豚脂	100.0

Rp.	ベタナフトール	2.0—3.1
	沈降硫黄	10.0
	滑石末	10.0
	加里石鹼	30.0
	豚脂	70.0

山田氏疥癬糊膏は

Rp.	硫黄華	30.0
	米粉	8.0—9.0
	サルチール酸	0.5
	水	100.0

使用に最も便利なのは Mitigal である、此等の藥劑は發疹部に強く擦入するのみでなく外見變化なき部位にも全身に之を塗擦しなければならぬ、之と同時に硫黄浴(硫黄、硫化加里、湯の花)を用ふれば最もよく、毎日入浴後藥劑を塗擦すれば可い。

但し硫黄劑は孰れも連用すれば皮膚を刺戟する虞が有る故に醫師の監督の下に Dermatitis の併發を豫防すべきである。

2) 患者一人を治療するのみでなく家族に同症があれば全部を治療しなければ再び傳染を起す。

又着衣寝具等は蟲卵が附着する故治療を開始すると共に充分此等の消毒を行はねばならぬ。殊に患者の皮膚に直接觸接した下衣は嚴重に消毒するを要す。蒸氣消毒(西洋洗濯でよろし)を行ひ或は熱湯を注ぎ若しくは2週間位毎日日光に曝露する。

3) 合併症として膿痂疹、糜爛、濕疹等が有れば夫々治療すべきは勿論である。

II 鼠咬症 Rattenbisskrankheit

定義 家鼠の咬傷に因て發生する皮疹及全身症狀である。

症候 咬傷部は間もなく治癒するが、數日乃至數週を経て發熱と共に舊創が再び暗紅色に腫脹し疼痛を伴ひ屢々水泡を生じ時には壞疽に陥る、之と同時に皮膚に紅斑、丘疹、結節を生じ往々 Erythema exsudativum multiforme に或は Erythema nodosum に類似する。此等發疹は初めは咬傷部の附近に現はれるが、次第に遠隔の部位に及び著しい時には Gesicht, Rumpf から Extremitäten に汎發し大小不同豆大から手掌大以上に及ぶ浸潤性紅斑發生し、或は Lepra に類する事がある。

發疹は概ね數日乃至數週で消退するが第二次、第三次の發熱と共に再發を重ね、余の經驗例では數年に及んだものがある。

Allgemeine Symptome としては Schüttelfrost に續で體温上昇し 40°C 以上にも及び 3—7日間持續するが、不定の時期を隔て、反覆發作するのが例である。此際筋痛、肢痛、疲勞、倦怠、頭痛、眩暈、耳鳴、食

思不振, 心下苦悶, 口渴, 悪心, 嘔吐, 下痢等を伴ひ重症では視野朦朧
譫言, 嗜眠, 昏睡を來して斃れる事もある。發作, 反覆を重ねれば全身
症状は漸次軽度になるのを常とする。

原因 石原氏, 二木氏の研究により鼠咬症スピロヘータ Spiro-
chaeta morsusumuris なることが確定した。

診断 鼠咬傷を受けた事實, 間歇熱, 皮疹, 筋痛。

療法 鼠咬に對しては嚴重に患部を消毒すること。

發病後は Salvarsan の注射が最も有効である。

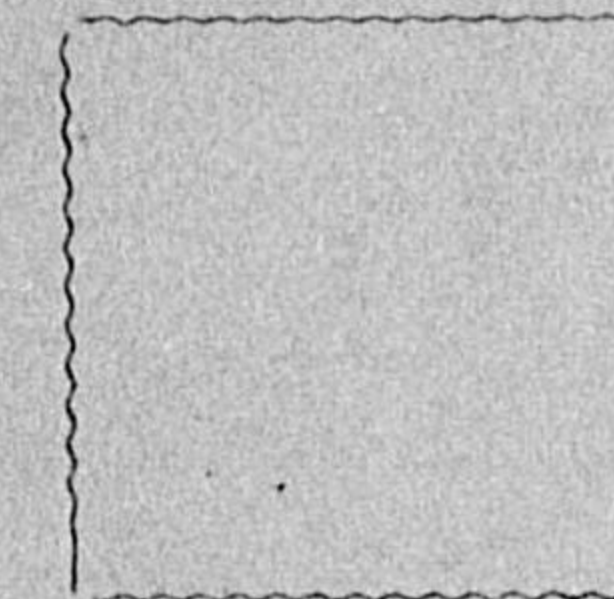
— Ende —

昭和8年9月20日 印刷

昭和8年9月29日 發行

皮膚科類症鑑別の實際

正價 ¥5.00



著者 萩原省三
發行者 栗原禮三
東京市田村町4丁目22番地7
印刷者 山村龜藏
東京市芝區新堀河岸31號
印刷所 山村印刷所
東京市芝區新堀河岸31號

發行所 禮文社

東京市芝區田村町4丁目22番地7
電話芝 2114番 振替東京 71601番

494. 8-H14ㄅ



1200500744036

終